

Hayakawa town new government office building project

Utilization of area material resources 地域産業資源の活用について

Story 早川町新庁舎を建設するにあたり

6 か村の合併により、昭和 32 年竣工から約 60 年経過した旧庁舎は、とても温かみのある地域に大切にされてきた建物でしたが、当時は、仮設的な建物として建設されました。建替えにおいては、町民・役場職員・設計者・施工者が、**「新しい地域文化の核」「人々が交流する場」「地域のシンボル」**としての新庁舎の完成を目指し、ワークショップ、住民インタビュー、現場見学会や町役場ホームページや広報で、設計段階から建設過程の情報発信等により、様々な世代が参加し「新庁舎づくり」が行われました。



旧庁舎外観

旧庁舎 2 階廊下

Social suggestion 社会課題に対する解決の提案と展開・波及効果

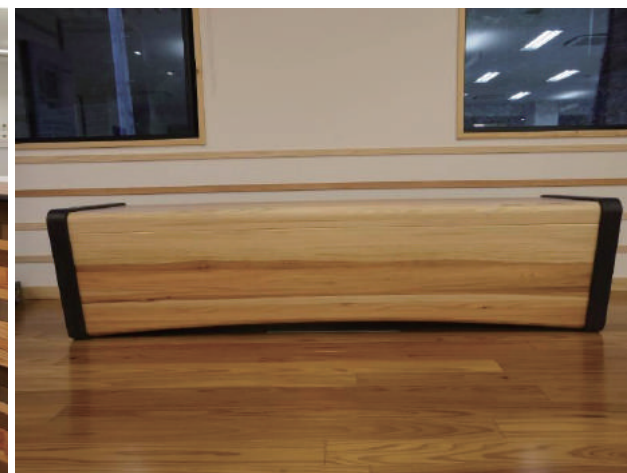
間伐材の利用だけでなく、職人不足により森林の手入れが行き届かず、枝打ち等が頻繁に行われないことで節が多く構造材としては使用できない材木を積極的に利用しています。さらに、梁等構造部材とする芯部分以外を家具や内装材として、積極的に使うことで、木材利用の可能範囲を広げました。また、地元産木材を使った、ベンチ等家具・什器を製作し、新庁舎でショールーム的に展示しています。その他、県内の 2 村と立ち上げた山梨水源ブランドと称した協議会において、地元産木材を使用した家具をオリジナルで製作しました。



多目的交流スペースのテーブルセット



地元産木材による
受付カウンター



地元産木材による
待合ベンチ



地元産木材による
パンフレット棚と内装材



地元産木材による
会議用テーブル

Area contribution × Finding of human resource's 農山村地域の活性化への貢献と人材の発掘・育成

▼早川町産材の木材を活用するまでの流れ



地元産のスギやヒノキの伐採・搬出を地元の早川町森林組合へ委託することで、地域の雇用の創出・拡大を図りました。また、地元産木材を積極的に使用し、町民・子供たちが建設過程を体験することで、地元産木材の認知又は地元で行われている林業及び木造による建物の建設へ興味を持ち、今後の段階的地域力向上・活性化・人材の発掘・育成につながるように努めました。



新庁舎建設前に行った
空間ワークショップ



建設途中の現場見学会
地元産木材を使用するまでの工程説明



建設途中の現場見学会
木造の構造に触れる



建設途中の現場見学会
地元産木材に触れる

Improvement of the area power × The story linked in the future

ワークショップを行い、地元産の木材がどのような過程を得て新庁舎へ使用されているかを町民へ紹介しました。建設現場見学会にて、町民の利用するスペースへの地元産の木材の使われ方、樹種の違い等に直接触れる機会を設けることで、今回のプロジェクトに対する町民の理解を深め、今後地域全体で地元の産業を盛り上げられるように、土台づくりに努めました。

将来この町の主役となる子供たちに、町のイメージする絵を描いてもらい外構タイルへ転写し使用することで、町の未来へ人をつなげるストーリーにも取り組みました。また、旧庁舎の館名板を修復して新庁舎に掲げたり、旧庁舎の 2 階廊下の間仕切りガラスを扉の一部に再利用するなど、先人たちの積み上げてきた早川町を後世に残し、伝えるようにしています。

早川町役場を通しての地域力の向上と未来へ繋がるストーリーづくり



旧庁舎から館名板を取り外す



新庁舎へ館名板取付



扉へ再利用した
ガラス板



子供たちのイメージする早川町

